

みんなの 町議会

 神石高原町



早く食べたいよ～ 油木保育所餅つき大会

第 37 号

平成26年 1月15日

■補正予算質疑(12月補正)	4
■あなたの声を町政に(一般質問) ...	7
■ありゃどうなったん(和牛の里) ...	14
■主な議会活動(平成25年)	15

どう団地整備にむけ

基礎調査費 300万円

12月定例会

12月定例会は、12月4日から12月20日まで開かれました。平成25年度各種会計補正予算や、消費税に関わる条例の一部改正など57議案と教育委員会委員の任命1議案、各種委員会委員の選任同意など5議案、財産の取得1議案、過疎・辺地・建設計画の変更と議員発議2議案を含め、すべて原案通り可決しました。

一般質問では、12人の議員が当面する行政課題をただしました。

一般会計補正予算

3億2878万円

主な新規事業

農村地域総合推進事業

トマト・ぶどう団地整備事業の営農計画策定に300万円

目的

特産品である神石高原町トマト・ピオーネの産地拡大により、新規就農者の拡大、担い手確保及び定住促進を図る。

普通財産管理経費

遊休財産解体処分

○旧食糧事務所建物解体工事に900万円

○旧来見中学校校舎・屋内運動場解体工事に6900万円

道の駅電気自動車活用事業

電気自動車普通充電器整備に14・3万円

目的

「道の駅」EV活用プログラムの道の駅の利活用の向上と中山間地域での公務利用における電気自動車の導入効果の検証。

5ページに詳細掲載





12月補正予算 一般会計

トマト・ぶ



議会政策提言

サル被害防止対策の充実強化

- ① サル用捕獲柵の設置に対する助成措置の拡充。
- ② 捕獲駆除対策の強化。
- ③ サルの追い払い対策の拡充。
- ④ 地域の協体制充実のための支援施策の実施。



サル用据置式捕獲柵

13ページに内容掲載

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまには、日頃から町政並びに町議会に対する暖かいご理解と絶大なるご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

新年を迎え神石高原町の新たな発展を期して身の引き締まる思いでございます。昨年、国政においては、夏の参議院議員選挙で自民党が圧勝し、自公安定政権が誕生しました。安倍政権により新たな政策が矢継ぎ早に展開され、我が町においても期待と不安の中の新年となりました。安倍神石高原町議会も新メンバーとなって2年目を迎えました。あらためて初心に帰り、議会のもつ使命を再確認し、「住んでよかったまち、誰もが住みたいまち」神石高原町を目指して、英知を結集し邁進する覚悟でございます。

何卒本年もあい変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いして、新年のごあいさつとさせていただきます。

神石高原町議会議長 木野山 孝志



12月補正予算質疑

環境衛生課

藤田議員 ヤンマー移転に伴うボーリング工事を簡易水道に変更するようだが、この地域の上水道への要望には答えていくのか。

横山課長 多少の余裕を持たせているので、要望に対しては検討する。

建設課

村上議員 社会資本整備事業の400万と国県道整備推進経費690万の内容は。

国重課長 切田地区の雨天時冠水対策と、ヤンマー移転に伴う水源確保である。

村上議員 統合中学校の交通安全対策は進んでいるか。

国重課長 現在公安委員会と協議中。

横尾議員

産廃業者の不法投棄に関しての強制執行供託金の内容は。

国重課長 町営住宅から排出された汚泥1・6トン。中間処理業者が不法投棄したものであり、町の排出責任が発生したことによる。

産業課

村上議員 人農地プラン(小野地区)の内容は。

守多課長 事業額の確定により、集積協力金の活用が3名である。

村上議員 新規就農者支援金の補正理由は。

守多課長 畜産経営を開始する2名の事業確定による。

横尾議員

トマト、ぶどうの平均的な売上と所得は。

守多課長 売上はトマトが40a作付けで1600

横山議員

万円、所得が約6割。ぶどうが80a作付けで1100万円、所得が5割。

松本議員 トマト、ぶどう団地の基本計画・営農計画の策定は。又用地の同意の見通しは。

守多課長 基本計画は町の方針を決めていくもの。測量設計は入っていない。

町内の地権者の同意は頂いている。町外の地権者は今からお願いをする。

松本議員

新規就農者については今の制度で対応するのか。

守多課長 現在検討中だが、新年度で予算計上をしたい。

福祉課

横山議員 とよまつ保育所は改修の必要はないのか。

榊原課長 油木保育所は

老朽化しており、0才児受入れも含め保育所の改修が必要だ。豊松は問題ない。

横山議員

保育業務をしながらの改修工事となり、安全面は大丈夫か。

榊原課長 安全面には十分配慮して、事故のないようにしたい。

保健課

松本議員 保健福祉センターの電気料の不足の理由は。他の庁舎はどうか。

世羅課長 前年の電気代が次年度の基本料へ反映されたため。

前原課長 他の施設では既定経費で対応する。

まちづくり推進課

村上議員 中小企業利子補給事業の減額の理由は。

入江課長 24件の貸付が決定し事業量の減額に伴うもの。

反対討論

片山元八郎議員 補正予算にはほぼ賛成だが、動物愛護事業に賛成できない。一括採決なので反対する。本年度当初予算では15頭、10月末現在で、43頭保護している。今回30頭に対して上限の1頭につき2・4万円の総額72万円の予算を組んでいる。補正とは、私のとらえ方では、当初予算で足らざるを補うことだ。当初予算でも反対している。行政の責務はペットとして飼う人のマナーの啓発第一だ。散歩中の糞害、放し飼い、騒音被害などそういったことに力を注ぐべきだ。

賛成討論

寄定秀幸議員 一般会計補正予算は、主に災害復旧事業、過疎債を充当する遊休財産等の解体処分費の計上、職員人件費の組み替え等となっており、適正な補正予算計上と認められ、本予算案に賛成する。

動物愛護事業として犬の保護委託料を当初予算で15頭分を計上したが現在43頭保護したので、今回不足する30頭分の経費72万円を補正計上したものであり、当然の補正予算計上であり、なんら問題はなく反対の理由は全くない。



12月補正予算内訳

○一般会計 補正予算額 **3億2878万円**
 補正後予算額 **106億5179万円**

単位：万円（四捨五入）

費目	補正予算額	補正後予算額	主な内容
議会費	0	8,568	
総務費	7,178	15億2,778	普通財産管理経費8,000 雇用対策基金事業▲1,040
民生費	1,610	17億7,938	保育所施設等管理経費1,600 敬老会開催経費▲75
衛生費	8,558	10億7,344	一般廃棄物収集処理事業9,000 特別会計繰出金▲991
農林水産費	2,356	8億0,061	農村地域総合推進事業561 畜産経営安定推進事業1,430
商工費	▲76	1億0,802	中小企業育成▲76
土木費	1,481	6億8,095	社会資本整備総合交付金事業400 国道道整備推進経費690
消防費	0	4億2,209	
教育費	573	9億9,850	小・中・高校教育支援事業500
災害復旧費	9,880	1億7,707	現年発生農地および農業用施設災害補助復旧事業6,960
公債費	0	19億2,125	
諸支出金	1,318	10億3,702	かがやきネット管理運営基金積立1,334
予備費	0	4,000	
合計	3億2,878	106億5,179	

補正予算の財源

緊急雇用対策基金事業補助金1040万円、ひろしまの森づくり事業費補助交付金619万円などを減額補正し、災害復旧事業費国庫補助金1854万円、災害復旧事業費県補助金4050万円、前年度繰越金3490万円、町債1億9480万円などを増額補正。

○特別会計・病院事業会計 12月補正予算
 補正予算額 **2335万円**
 補正後予算額 **43億0575万円**

単位：万円（四捨五入）

会計名	補正予算額	補正後予算額	
特別会計	国民健康保険 事業勘定	177	11億8,314
	診療施設勘定	0	400
	後期高齢者医療	0	4億2,674
	介護保険事業 保険事業勘定	▲236	19億1,489
	介護サービス事業勘定	0	1,549
	簡易水道事業	1,370	2億0,680
	飲料水供給施設事業	149	4,099
	農業集落排水事業	875	2億6,260
	総合開発事業	0	4,920
	分収育林事業	0	10
小計	2,335	41億0,395	
病院事業会計	0	2億0,180	
合計	2,335	43億0,575	



解体する旧油木焼却場

条例制定・改正 こんなことが

決まったよ

全会一致
人事案件

神石高原町固定資産評価審査
委員会委員の選任

宇賀拓郎さん
黒川 勝さん
江草忠行さん
川上忠義さん

人権擁護委員の候補者の推薦
赤木千恵子さん

神石高原町教育委員会委員の
任命の同意
中岡康典さん

全会一致
条例

平成26年4月1日から消費税
率が改正されることに伴い、
神石高原町行政財産の使用料
に関する条例などの一部を改
正する条例などの改正57条例

全会一致
財産の取得

種別 神石高原町立統合中
学校新築にかかる備品

取得価格 19,845千円
相手方 おしゃれ衣料フクマン

全会一致
指定管理者の指定

施設の名称 油木老人集会所
指定管理者となる団体

油木中央百楽会

全会一致
計画の変更など

- ・ 神石高原町過疎地域自立促
進計画の変更
- ・ 辺地にかかる公共的施設の
総合的な整備に関する財政
上の計画の策定
- ・ 神石高原町新町建設計画の
変更

議員発議

全会一致

神石高原町農業委員会委員の推薦

提出者 横尾 正文
賛成者 丸山 達夫

平成25年11月15日開催の会
議において慎重に協議をし、
次の4人を適格者として議会
推薦による農業委員会委員と
して推薦した。

神石高原町近田 藤井ヨシ子さん
神石高原町牧 圓道タミ子さん
神石高原町下豊松 小田千寿香さん
神石高原町上 小川 玲子さん

過疎対策の積極的推進を求める意見書

提出者 寄定 秀幸
賛成者 久保田龍泉

過疎地域が安心・安全に暮
らせる地域として健全に維持
することが、多面的・公益的
機能の維持と、都市も含めた
国民全体の生活の向上につな
がることだ。引き続き過疎地
域に対して、支援を行い、住
民の暮らしを支えていく政策
確立・推進することが重要で
ある。

- ① 過疎対策事業債を適用する
事業の拡大。
- ② 安心・安全に暮らせるため
の生活基盤を確立すること。
- ③ 過疎地域の活性化を図るた
め、道路網の整備を促進する
こと。
- ④ 過疎地域の産業振興を支援
し、新たな雇用を創出するこ
と。
- ⑤ 多様な主体の協働による地
域社会の活性化と人材の育
成・活用等による総合的な集
落対策を積極的に推進する。

一般質問

あなたの声を町政に

質問時間は、答弁を合わせて
一人二時間以内で一問一答方式

A 町長 昨年の長崎全国共進会において広島牛は惨敗した。その後関係機関との協議を進めてきた。広島牛は残さないといけないが、地域特定ブランド神石牛を認めてもいいとの方向だ。

Q 本年の広島県畜産共進会では、町内から出品された肉用種子牛、成牛とも好成绩をおさめた。この好機に、神石高原町産牛の素晴らしさを町内外に売り込み、ブランド化へ向け早急に進めるべきでは。

問 神石牛のブランド化へ

橋本 輝久 議員



答 神石牛復活の方向だ

A 町長 聖域なき関税撤廃で日本の農業は大変な打撃を受ける。現在の交渉を注目するとこ

Q TPP（環太平洋経済連携協定）の参加は、わが町にとって、大きな影響を与えるものがあると思うが、神石高原町の農業の将来像をどう考え、対応するのか。

今から詳細に認定基準を策定していかないとけない。神石牛としての方向性は関係者では合意しているが、頭数が少なく、肉質の向上も図らないといけない。



畜産共進会審査風景

A 町長 聖域なき関税撤廃で日本の農業は大変な打撃を受ける。現在の交渉を注目するとこ

政府の指導によってどうなるかだ。コメから付加価値の高い野菜、果物、畜産にシフトしていかないとけないが、楽な経営にはならないと思う。今、本町の農業の行方は目安も方向性も持ち合わせていないが、重要な課題であり慎重に検討したい。

ろだが、どこまで日本が頑張れるかだ。わが町のコメ作は関税撤廃を含め、減反政策の廃止や、また農地の集積などで大型化した農業と、競争することはきわめて難しい。

A 町長 ローソン号は総務省のモデル事業として始め、今年度で終了する。補完性の原則で、対応が困難

Q 高齢化により買い物困難な家庭が増えている。移動販売のモデル事業として、やまびこローソン号が販売をしているが、収支は厳しく、財政支援がされている。個人商店の移動販売は支援がない。商工会と連携をとり、安否確認等の業務を条件に支援が必要ではないか。

Q 神石中学校の跡地利用について、校舎の解体、いずみ保育所の移転、グラウンドヘイルなどの管理棟の設置、照明設備の充実などの要望が出されたが、新年度予算の見通しはどうか。



ローソン号

問 移動販売の充実支援を 何らかの形で検討する



久保田 龍泉 議員

Q 解体費用は、過疎債の有利なのがあると

A 町長 廃校後、校舎内の備品の整理などで1年かかる。

Q 安否確認は報告を受けているか。

A 町長 報告は受けている。な家庭には、町が関与する。ローソン号の販売、個人の販売など商工会や自治振興会と協議して何らかの形で支援していく。

Q 要望を受けて、住民をいれた検討委員会の設置は。

A 町長 内容は多くの課にわたっており、内部で精査して地元と協議したい。

Q 介護認定のうち要支援者のサービスが、保険から市町村の事業に移行されようとしている。町の財政負担、利用者の負担、給付はどうか。

A 町長 町の持ち出しが増えるので、町村会としては反対している。

問 防災・減災対策に
どう取り組むか

寄定 秀幸 議員



答 土砂災害への備えを重点的に

を重点的に行わねばならない。

国や県の防災計画の見直しを反映させ、今年末までに防災計画を再度見直す予定である。地域住民には、自助・共助と地域は地域で守るという意識の高揚が重要である。自主防災組織への支援や、災害時の近隣市町、国や県との支援体制の充実を図っている。今後、危機感を持って防災・減災対策に努めていきたい。

登録を推進する。災害時要援護者台帳を作成し災害に備える。

Q 学校の防災力向上対策の取り組みは。

A 佐竹教育長

各学校が防災計画を策定し、火災・地震・不審者侵入など、具体的な目的を持って防災訓練を実施している。広島県一斉防災訓練には、全校が参加する予定である。

Q その他の質問

- ・ 障害者就労支援について
- ・ 都市との共生・対流促進について

問 協働とは

答 補完である



丸山 達夫 議員

Q 協働の理念と今後の考えは。

A 町長

協働のまちづくりを考えると、経済高度成長時代では国や県の交付金などで住民サービスは賄ってあったと思う。

しかし、現在では財政状況は一変し住民の要望をすべて行政が行う事は無理であり、今後のまちづくりは住民と行政が補完し合い、行っていく事を理念と思う。

基本は自助、共助、公助だが、この自助、共助の不可能な状況にある中山間地は全国的には多々あると思う。

持続可能な行政は、国の支援もある地域おこし協力隊員の活動などで、加速する高齢化を相互補完する事、またNPO法人なども多く出来ていてこの非営利団体などの増す事を期待し、当面は住民と行政が補完し合う事が必要で、これを協働のまちづくりと考えている。

る。

Q 町費の負担無しで神石高原町暮らしの便利手帳の発行が官民協働事業として行うとあるが、協働事業として疑問も感じる。今後の協働事業はこの様な形ですすめていくのか。

A まちづくり推進課長

便利手帳は行政の情報や伝える物で、行政での発行は多大の経費が必要で、企業の方々、製作者に負担をお願いし発行するもので協働の一つと考えている。地域で出来る事は地域で行うのが、町全体の大きな定住・観光等事業は非営利団体などに委託する事も協働としての考えである。

Q 自然災害から住民の生命・身体・財産を守るための地域防災力強化が重要であり、特に土砂災害対策が急務だ。

「広島県地域防災計画」見直し後の防災・減災対策への取り組みは。

A 町長

超異常気象ともいえる地域限定型の、局地的な豪雨災害などの頻発が予測される。町内全域に急傾斜地や危険地域が多くあり、災害発生場所の予測は困難であるが、土砂災害や土石流への備え

Q 地域防災力の中核である消防団の強化・支援が必要だ。報酬や出動手当などの処遇改善の検討は。

A 総務課長

防災パトロールや防災訓練などに支援している。現在、処遇改善は考えていないが今後検討したい。

Q 要援護者の災害時避難への取り組みは。

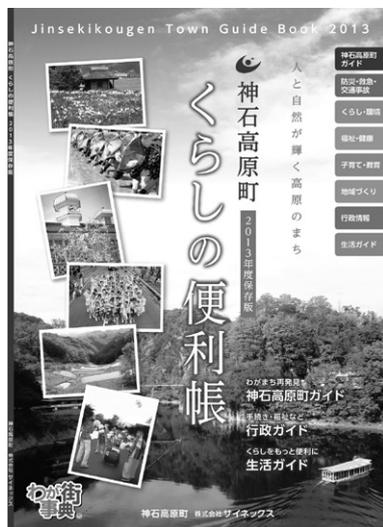
A 町長

民生、児童委員が要援護者の家庭を訪問して



広島県防災ヘリコプター

過去に於いても、幹線は別として自分達の必要とする地域の道路などは自分達で補修していた経緯もあり、この時代を想定する必要もあると思う。アベノミクスの経済成長戦略の影響も出つつあるが不安も感じ、また行政の怠慢ではなく自然的なものかと判断し、協働の



くらしの便利帳

Q 町立病院の具体的な運営方針、病院の規模、改修か新築かについていつ頃方針を出すのか。

A 町長
適正な病床数など検



訪問介護ステーション

問 町立病院の運営内容は

松本 彰夫 議員



答 適正な病床数など検討する

討を重ねている。耐震調査の概略は、12月頃判明するが、正式には3月になると思う。その結果で決断する。

Q 今後の病院運営を考える時、検討委員会など立ち上げるのか。

A 町長
当面指定管理者と協議を進める。介護関係法人との協議も必要である。

委員会の設置も検討する。

Q 病院の在り方をきめて、その上で指定管理者と協定書をつぶすのか。

A 町長
26年度協定については、現状の運営で協定を結ぶ。基本協定の中で、規模・機能の見直し時期を明示したい。

Q 協定書で、陽正会が示した指定管理の役割、町立病院協議会の答申などを具体的に反映させるのか。

A 町長
運営する立場と利用する立場で、意見の乖離はやむを得ないが、適正な判断が行われるよう最大限の努力を行う。

Q 福祉施設との連携について、訪問看護ステーションでは件数が激減し、存続が危ぶまれている。課長は、町立病院と調整すると言ったが、その結果は。

A 保健課長
現段階では出来ない。早急に行う。

Q 本町での臨時非常勤職員の割合は25%となり、特に保育所と給食職場に集中している。同じ仕事をしていても、待遇面に大きな差がある。待遇の改善はどうするのか。

A 町長
町内企業と比較しても高い方であるが、県内自治体の平均より少し下回っている。検討する。



安田地区・ライスセンター

問 元気の出るまちづくりは可能か



村上 克朗 議員

答 雇用創出と農業振興を推進する

Q 長期総合計画に基づき「小さくとも元気の出るまちづくり」を進めている。人口の推移と動向は25年度に目標値1

万700人で、11月1日現在で1万250人と減少しており、将来にどう対応するのか。町長は本年度の最重要課題に、5点あげている中の企業誘致や新規企(起)業家の支援により新たな雇用を創出についての進行状況は。

A 町長
全国で人口は減少しており、本町も人口減少を増に転じることは困難である。減少率を抑える中での豊かな生活を検討する。具体的な取り組みは、空家バンクの情報、PRの充実、さまざまな分野の資源を活用した起業支援、雇用の創出は県の緊急雇用対策事業により、5つの法人に10名の雇用を創出している。

Q 農業の六次産業化推進、新商品開発、販売拡大などはどう進んでいるのか、国の経営所得安定対策(戸別所得補償制度)やコメ政策の見直しで、米の固定支払いが26年度から半額の10アール当たり7,500円に減少し、30年度以降は廃止になる。耕作条件が不利な地域で後継者や担い手不足の中、飼料用米の生産に小規模農家に将来への希望、展望があるのか。

A 町長
国の経営所得安定対策(米の直接支払い交付金)の見直しは、本町農家の経営にも影響する。今後の将来像としては、米の需要が減っていく中、水稻主作から他作物の模索も必要と考える。飼料用米・飼料稻への転換誘導も視野に入れ、更に儲かる作物としてトマト、ぶどうの推進も必要。六次産業化、新商品開発は、米粉、果物や野菜の乾燥などを考えている。

問 遊休公共施設の 有効活用は

藤田 晃己 議員



答 過剰施設の解消に取り組む

Q 学校跡地、旧町村役場、議場などの利用についての基本的な考えは。

A 町長 地域住民の要望を前提に協議しながら決めていきたいが、大胆な発想でやらないとなかなか進まないし、財政的負担も大きい。

Q 高蓋小学校跡地は、解体して工場用地などとしては。

A 町長 現段階では財政的に



旧来見中学校

無理であるが、需要があれば考えていきたい。

Q 来見中学校跡地は利便性の高い土地なので解体して町営住宅用地、または定住団地の用地にしては。

A 町長 解体については早急に取り組む。利用については二者択一であると思うが、今後考えていきたい。

Q 来年三月末、廃校となる神石・油木・豊

松中学校跡地は生産性のある植物工場、施設園芸、薬用植物工場などに利用できないか。

A 町長 考え方、方向性は共有するが、どのような需要があるか検討しながら対応したい。

Q 旧3カ町村の庁舎

A 町長 議場など一部を除き大半が空いていると思うが、起業家、利用希望の事業者には有償貸付すれば、雇用の場の確保、家賃収入、法人町民税、地域経済への波及効果、好意的報道による宣伝効果もあると思うが。

Q 現在各支所の一部は

A 町長 社協、シルバー、公民館事務室などで利用しているが、民間に貸し付けるには、情報セキュリティや冷暖房設備などを考慮するとかかなりの改修費が予想される。支所を廃止した場合なら諸課題のハードルは低くなると思うが、耐震化やリフレッシュ工事が必要であり、財政的課題も大きい。

問 殺処分ゼロ になぜ公費を

答 動物愛護の施策だ



片山 元八郎 議員

Q 10月21日放送の「NPOピースウィンズ・ジャパン(以下、PWJ)活動拠点を神石高原町に」番組を視聴した町民から「違和感あり」の声を受けての質問である。

A 町長 動物愛護の理念に基づいた施策である。

Q 町内NPO(非営利法人)への平成24年度の助成金額は。

A 町長 PWJへ犬の保護経費として72万円余。雇用促進奨励助成金として、地域再生プロジェクトに40万円を支出。予算提案で同意を頂いた。

Q 予算提案は他の案件も一括提案される場合がほとんどで、本件のみ反対議決は難しい。平成24年6月定例会で、同僚議員の質問への回答で犬の殺処分ゼロを宣言さ

A 町長 人が優先だと思っが。ペットと人の比較はできない。犬は人間に飼われているのだから。

Q ドッグランへの保護費支払いは、1頭当たりいくらか。

A 町長 環境衛生課長 2万4千円が上限。

Q 迷い犬の放送を役場がする明快な理由は。

A 町長 狂犬病予防法に、迷い犬などは、住民への告知規定がある。

Q 今年2月「神石高原町動物愛護行動計画」を策定し、動物愛護思想の普及啓発とある。パラグアイの前原農場では立派な「鶏魂碑」を建立し、毎朝お水とお花を供え拝礼している。わが町ではどうか。

A 町長 環境衛生課長 愛玩動物は環境衛生課で対応している。畜産動物は担当していない。



犬の譲渡会(油木ふるさと祭り)

Q 地籍調査は平成25年3月末で約71%の完了、予算は減少傾向、職員は減少し続けている。終了予定年度で一番遅いのが神石地区の平成47年度となっている。地籍調査事業の大きな課題として高齢化が進み、現地がわかる人の著しい減少という問題がある。なぜ地籍調査に係わる人員や予算が減少しているのか、計画の見直しは考えているのか。

問 地籍調査を早急に



赤木 俊二 議員

答 国の予算減もあり推進したいがむずかしい

A 町長 進捗状況は県や国よりも進んでいる。町としてもスピードアップはしたいが、県から無理な計画はしないよう指導もある。対応として境界の明確化を森林組合にお願いしている。

A 産業課長 高齢化の問題は、代理人などで対応していたきたい。

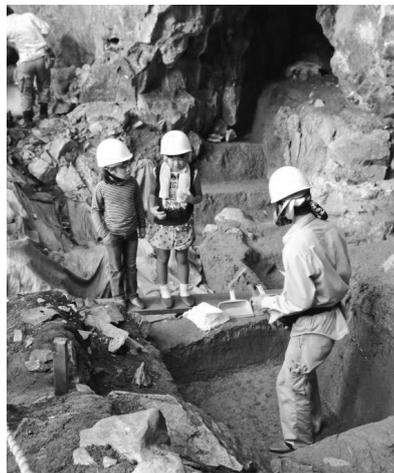
A 副町長 地籍の補助率は決まっている。国が全体の予算を下げていっているので町の予算も下がる。また人員も割くのは難しい。言われる趣旨は理解している。

A 町長 社会教育法によれば公民館の目的として、全ての国民が自ら実生活に即する文化的教養を、高め得るような環境を、醸成するように努めなければならないが、4か所の公民館を公平に運営しているのか。

A 町長 進捗状況は県や国よりも進んでいる。町としてもスピードアップはしたいが、県から無理な計画はしないよう指導もある。対応として境界の明確化を森林組合にお願いしている。

A 副町長 地籍の補助率は決まっている。国が全体の予算を下げていっているので町の予算も下がる。また人員も割くのは難しい。言われる趣旨は理解している。

A 教育長 年度ははじめと、年4回ほどの館長会議で講座などのすり合わせはしている。統一メニューと公民館ごとの独自のメニューがある。全町的に告知はしているのですが、地域の公民館で受講する人もいる。統一メニューと地域要望による特色ある独自メニューの両方行い、教養文化の推進に努めたい。



遺跡調査
油木キッズクラブの公民館活動

問 高齢者の生活支援は

答 安心して安全な住環境を検討していきたい



横山 素子 議員

Q ふれあい号バスの課題と今後の取り組み

A 町長 運行形態については5年を経過して、ほぼ定着している。課題は高齢化が進む中、バス停まで行かない、利用時間・曜日が合わない、乗り換えが大変などが考えられる。

Q バス停まで500mないとタクシーチケットがもらえないが、様々な事情でタクシーチケットが必要な人もおられる。こういう事情に柔軟な対応をすることはできないか。

A 町長 様々な課題はあるが、行政と運行業者が歩

み寄って、今後検討していきたい。



小野地区健康道場でのランチタイム

Q 昨年油木のスーパーが閉店となり、住民の中にはこのスーパーをたよりに生活されていたのでとても困っておられる。こういう人たちに対して、行政として何ができると思うか。

A 町長 行政が小売業を直接経営することはできないが、今後、百彩館に農産物だけでなく、日用品や加工品なども置くように新年度から考えている。

Q 高齢者の一人暮らしの安否確認の現状と課題は。

A 町長 見守り訪問員さんによる安否確認や郵便事業とあわせてハガキによる安否確認を行っている。課題は訪問を拒否される方への対応、頻度及び訪問員さんの確保などがある。

Q 買い物困難者への対策として、行政としての取り組みは。

A 町長 基本的な考え方は補完性の原則であり、家族などの対応が基本であると考えている。

問 トマト団地の進捗状況は

妹尾 幸太郎 議員



答 用地確保をすすめており、平成28年度には着工したい



豊松トマト団地

Q 安田地区で計画されている、トマト団地の進捗状況は。

A 町長

現在、用地確保を進めておりスタート段階だが、規模は豊松の団地を上回る10ヘクタール程度の規模を想定している。2団地の整備となるが、地元地権者の承諾は得ており、今後は町外の地権者や周辺地域の承諾を進めたい。入植者は概ね20戸を予定、公園は有効性を見極めたい。なお、観光農園を一区画設けるこ

とも検討している。選果場は当面、豊松選果場の活用が可能かどうか調査している。平成28年度事業着手予定で、できるだけ早期に実現したい。

Q トマト団地の周辺地域(国道182号の

小吹から、森林組合までの左右、豊松に至る道路周辺の約100ヘクタール)を神石高原農業のシンボルゾーンとして整備し、畑作団地を造成してはどうか。さらに周辺の集落も、小規模な団地化

を進めれば、里山集落の強化につながり、集落ひとつ一つが、トマト、ブドウ、コンニャクなどのクラスターとして機能する。町全体では、西日本有数のブランド作物を複数持った地域となる。

この構想を実現するためには、長期的な農業のブランド・デザインを描き、計画的な事業実施が必要である。さらに、事業規模が膨大であることから、地元負担を可能な限り軽減するためにも、県営事業を導入してはどうか。

A 町長

持続可能なまちづくりには、産業を興し、雇用を増やすことが何より重要と考えている。水田の団地化には限界があり、付加価値の高い畑作物の団地化は重要と思う。県とも協議し、トマト団地計画の推進と、同時並行して、議員提案の構想を全面的に推進したい。

問 食材の虚偽表示はないのか



横尾 正文 議員

答 現状ではない

Q 食材の虚偽表示などは、結果的には提供した販売店やレストランにとって大きな打撃になる。町がかかわっている産直市などの虚偽表示や産地偽造はないのか。

A 町長

商品表示等指導計画に基づき調査しているが虚偽表示はない。

「消費者モニター」の設置を今年度の補正予算に計上する。また消費者庁だけの管轄であったものを別の省庁にも拡大するが町の対応は。

A 町長

今後さらに担当課を通して調査する。

Q 虚偽表示において、国は今後、物価以外に食材の虚偽に対しても

救急車での急性期医療受診は、一時間程度は必要である。そこで日頃の予防医療に特化する必要があるが、現在の



検診風景

検診の状況と検診受診率を上げるための方策は。

A 町長

特定健診・がん検診とも受診率は、県下ではトップクラスである。ただ高齢化で受診率の低下が予測されるので、担当課を通し啓発活動に努める。

Q 24年度比で37年度内、医療サービスは5割増、介護サービスは4倍に増える。

このうち約4割が税金でまかなわれ、税の負担増により町財政が圧迫されると予想される。そこで受診率向上対策として、受診者の医療費の負担軽減と保健委員の制度見直しで予防医療の強化をし、税負担の軽減が必要では。

A 町長

医療費の負担軽減は、大胆な提案ではあるが検討したい。また制度づくりは必要である。何らかの成果が出るよう検討したい。

産業建設常任委員会

研修報告

調査日時 平成25年11月19日・20日

1 調査案件

- ① 山口県周防大島町における六次産業と後継者育成について
- ② 柳井市における山口型放牧について

2 調査の成果

- ① ○地元の素材を使った商品による6次産業化
 - ・橘みのり工房
 - ・地元の柑橘を使用した缶詰
 - ・ジャムズガーデン
 - ・柑橘類を中心とした地元の素材を使ったジャム
 - ・オイルサーデン
 - 後継者育成
 - ・島スクエアシステム
 - ・チャレンジショップ
- 島内での起業・自営業の育成システム
- いりこにならない大きめの
イワシを使用したもの



研修風景

- ② レンタルカウによる農地保全システム

・畜産農家から牛を借り、荒れた農地の雑草を牛に食べさせる試み。

平成26年度の予算編成において、重点課題として12月16日に町長へ提言した。

サル被害防止対策の充実強化

① サル用捕獲柵の設置に対する助成措置の拡充

捕獲駆除により個体数の調整を行うための捕獲柵に対する助成措置を拡充されたい。
効率的な捕獲を行うため、移動式捕獲柵を検討されたい。

② 捕獲駆除対策の強化

有害鳥獣駆除に対する捕獲奨励制度の拡充を検討されたい。
特に、サルの捕獲奨励金の増額が望まれる。

③ サルの追い払い対策の拡充

サルの追い払いは、煙火によるモデル的事業や個々の農家による追払犬の導入などにより行われているが、追い払い効果はその性質上、全町的に実施される必要があり、全町的な対策となるよう検討されたい。

④ 地域の協力体制充実のための支援施策の実施

効率的で実効性のある対策とするため、地域の自治振興会や住民の理解と有害鳥獣駆除班への協力体制を確立する必要がある。住民を対象とした講習会や説明会の開催などの支援施策を充実されたい。

追跡 ありゃあどうなったん？

神石高原和牛の里 和牛生産の拠点！

平成20年に広島県が旧広島牛改良センター跡地を神石高原町に譲渡したことにより、「神石高原和牛の里再構築プロジェクト」が策定された。

これは、和牛繁殖の生産地としての伝統を活かしながら、和牛振興及び増産を目指すというプロジェクトで、現在26.6haの敷地を、地元畜産農家により設立された農事組合法人神石高原和牛の里に管理運営を委託している。

敷地内には、全農と神石高原和牛の里の2つの団体があり、和牛の里では主に出産前の牛を飼養管理している。

管理体制は、後継者である職員1名を雇用し、職員を軸に組合員が協力する体制が出来上がっている。

また併設する敷地には個人で飼養している牛舎もある。

プロジェクトでは、350頭を目標にしているが、現在は228頭である。



課題として、飼料価格の高騰や子牛価格が不安定な点と、なんといても後継者が少ないことなどが挙げられるが、今後儲かる和牛経営を目指し、「神石牛」の認定基準を策定し、ブランド化を図るとともに、更なる増頭、所得の向上を目指している。

まちの声

多数のご意見ありがとうございました。
ご意見にお答えします。

○財政力の向上が計れるように。削減ばかりじゃ町民はやる気が出ない。黒字決算はすばらしい。
(60才 男性)

◎財政厳しい中でも、さらに希望がもてる施策を提案していきます。

○みんなが幸せに暮らせる町づくりにめざして健康に気をつけて頑張ってください。
(69才 女性)

◎ありがとうございます。今後も努力していきます。

○高齢化が進んでいる神石高原町にも7年後には必ずオリンピックが日本で開催されます。いつか聞いた事のある三波春夫のあの歌声が聞こえて来そうな気がします。
(57才 女性)

○若者の雇用対策に努めて下さい。
(63才 女性)

◎最重要課題として、積極的に考えていきます。

○みんなの町議会は大変読みやすく内容も充実しています。これからもいろいろな情報をよろしくお願ひします。
(24才 男性)

○女性議員誕生により議会だよりを読むのが一段と楽しみになりました。
(65才 女性)

◎中学校の跡地は何に使用されるのでしょうか。高齢者社会において施設ができたらいと思っております。
(75才 女性)

◎中学校の跡地利用は地元住民の皆様のご意見を聞きながら検討して参ります。

○「みんなの町議会」を読んで少しは頭がよくなったみたい。議員さんがそれぞれの立場で頑張っておられるのがよくわかります。有り難い事です。
(89才 女性)

○みんなの町議会の益々の発展をお願いします。
(75才 女性)

第19回 議会クイズ当選者

- | | | |
|------|-----|-------|
| 神石地区 | 佐久間 | スエ子さん |
| 神石地区 | 細川 | 希さん |
| 油木地区 | 平元 | 二重さん |
| 豊松地区 | 江草 | 修二さん |
| 油木地区 | 井原 | かよ子さん |

平成25年 主な議会活動



1月11日 広島県町議会議長会
25日 町商工会理事会新年会
27日 町消防団出初式

4月4日 仙養ヶ原山開き
8日 各小・中学校入学式
9日 油木高校入学式
10日 議会定例研修会

2月5日 協働のまちづくり講演会
8日 議会臨時会
22日 広島県町議会研修会

5月8日 臨時議会 議会定例研修会
13～16日 議会報告会
22日 広島県町議会研修会
23日 町商工会総代会
24日 シルバー人材センター総会
30～31日 陳情・研修（東京）

3月1日 油木高校卒業式
4～22日 議会定例会
10日 各中学校卒業式
17日 女性会総会
24日 各小学校卒業式

6月5日 郡木材組合総会
10～20日 議会定例会
21日 統合中学校起工式
29日 青少年健全育成大会（府中市）



議会政策提言書を町長へ

7月1日 油木高校を育てる会
6日 恋人の聖地 除幕式（紙ヒコーキタワー）
11日 議会定例研修会

8月9日 議会定例研修会
15日 成人式
22日 広島県町議会研修会

9月3～20日 議会定例会
13日 郡畜産共進会
19日 議員定数・報酬研究会発足



議会定例研修会

10月10日 議会定例研修会
15日 町老連GG大会
29日 県畜産共進会 各地区イベント

11月15日 議会定例研修会
19日 福山北消防署落成式

12月4～20日 議会定例会
16日 政策提言書を町長へ提出

平成25年においては、議会の持つ使命を再確認し、新しい取り組みを始めました。予算特別委員会を設置し、自由な質疑や意見陳述、討論を活発に行いました。また議会基本条例に基づいて、各地区での議会報告会の開催では、初めての取り組みで、反省点が多々あり、今後改善を加えながら充実した議会報告会にしたいと考えています。議会定例研修会を開催し、目的をもって課題を共有しながら討論を重ねており、特に議員定数と報酬に関する研究会を立ち上げ、検討を始めております。本年も、住民皆様のご意見をお聞きし町政発展のため、精進してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

神石高原町議会 副議長 小川 清 治

そのほか

会期中には、議員調整会議・予算特別委員会など行っており、福山地区消防組合議会、県後期高齢者広域連合議会にも出席している。会期外においては、地区での行事参加や各委員会（総務・産業・広報）の所管事務調査活動を行っている。

又、各市町からの議会視察の対応など行っている。

元気なグループ紹介だよ



小野ヤングファミリーの忘年会



敬老会出演の青空の会

小野ヤングファミリー
天空の里
小野自治振興会

標高およそ500mに位置する天空の里小野自治振興会は148人でそのうち65才以上は97人という超高齢化が進む中でも、少人数の若者で結成しているのが、小野ヤングファミリーです。結成して30年あまりですが、運動会、夏祭り、敬老会など、地域の行事には積極的に参加しています。

その中でも女性は「青空の会」と称して、敬老会では、劇や踊りを披露して敬老者の皆様に喜んでもらっています。また男性は夏まつりで屋台を出したり、冬にはイルミネーション設置をしたりとそれぞれに活躍しています。

写真は昨年暮れの忘年会の集合写真です。こうしてコミュニケーションをはかりながら、少人数でも地域に根ざした活動をしています。年齢は決してヤングではありませんが、みんな気分は20才代で頑張っています。

発行責任者 議長 木野山孝志

住所 広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

第20回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

- 〇〇〇・ぶどう団地整備にむけ
 - 一般質問 神石牛の〇〇〇〇化へ
 - 一般質問 〇〇・減災対策にどう取り組むか
 - 議会政策提言 〇〇被害防止対策の充実強化
 - 天空の〇 小野自治振興会
- 《ヒント》議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。

正解者多数の場合は厳正な抽選により、5人の方に10000円分のやまなみ商品券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》〒720-11522

神石高原町小島二〇二五神石高原町議会事務局 「第20回議会クイズ係 宛」

《締め切り》2月10日(月) 消印有効

《個人情報取り扱いについて》

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は3月です
日程は告知放送などでお知らせします 一般質問はケーブルテレビ放送します

編集後記

広報委員会が新体制になって1年が過ぎました。長いような短いような不思議な1年間でした。

新人だった3名の広報委員もようやく慣れてきたので、更に研鑽を重ね、より皆様と共にわかりやすい広報誌を目指していきます。

広報委員は、一年を通しての活動です。特に「みんなの議会」は、議会が終わった後の編集活動が主な活躍の場です。委員長にはっぱをかけられながら、広報活動頑張ってます。

(俊)

議会広報常任委員会

- 委員長 橋本 輝久
- 副委員長 横尾 正文
- 委員 妹尾幸太郎
- 委員 横山 素子
- 委員 赤木 俊二